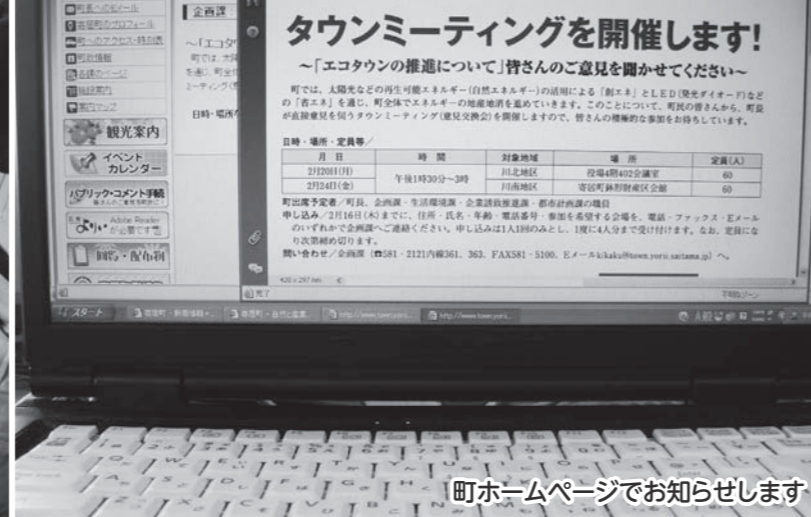
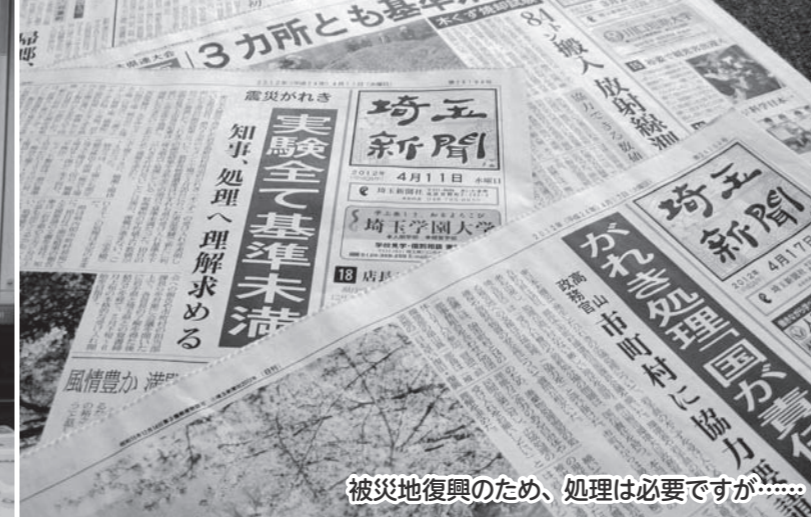




AEDの使い方を体験（総合予防訓練）



町ホームページでお知らせします



被災地復興のため、処理は必要ですが……



互いの人権を尊重して（写真はイメージ）

次のページは「発達障害児・エコタウン計画・前期基本計画・デマンド交通」に関する一般質問

寄居町の今とこれから「一般質問」(13名が登壇しました)

### 総合防災訓練の成果は



さとうりみ 佐藤理美 議員

答弁⇒ 実践的で実効性のあるものにすることができました

問 未曾有の災害をもたらした東日本大震災から1年を迎えました。現在、全国の自治体では東日本大震災の教訓を生かし、「災害につよい町づくり」に向けた取り組みが推進されております。

答 当町では、災害時に落ち着いて、行動するためには日ごろの訓練が重要であることから、8年振り（昨年11月27日）に防災訓練を実施しました。早い段階での訓練実施は、評価すべきと考えます。

また町では、防災基本計画の見直しを進めております。そこで、防災訓練の成果について伺います。

答 震災直後に訓練を実施したため、住民の方はおもてより職員も突然襲ってくる災害に対し、認識を新たにされたものと考えます。また実践的で実効性のあるものにすることができたと考えます。

問 避難所運営を手軽にシミュレーションできる「HUG（ハグ）」の活用について伺います。

答 訓練実施計画の中で、総合的な観点から貴重な提言と考えます。

### 「釜石の奇跡」防災教育の取り組み

問 釜石市の児童生徒の99.8%が、命を落とさずに生き延びることができたことで「釜石の奇跡」とも言われ、全国的に注目されている防災教育の取り組みについて伺います。

答 町としても児童生徒自身が自分で判断し、行動できるような訓練を実施していきます。また釜石市の防災教育については、今後研究していきたいと考えます。

### タウンミーティング、出席状況は



たきざわしゅん 瀧澤 忍 議員

答弁⇒ 川北会場4人、川南会場が7人です

問 協働によるまちづくりを進めていくため、町民の皆様と町長・行政側が直接顔を合わせ、町政等に関する生の声を伺う場として、タウンミーティングは特に効果的だと考えます。

答 2月に行われたエコタウンの推進について、タウンミーティングの2会場それぞれの出席状況、及びどのような意見が出されていたのか伺います。

答 参加者数は川北会場が4人、川南会場が7人です。参加者の皆様からは、再生可能エネルギーに関する意見、公共施設を中心としたLED化推進、エコロジーな取り組みを行っている自治体との連携等、幅広く意見をいただきました。

問 皆様からいただいた意見を、町のホームページで公開する考えはあるのか伺います。

答 参加者の氏名を伏せた上で、公開していると考えています。

### 今後の実施方法は

問 今後、定期的な実施や夕方以降に開催する考えはあるのか伺います。

答 必要に応じテーマを定め、従来どおり時宜を得た実施に努めてまいります。開催時間については、これまでの参加状況を勘案し、夕方以降の時間帯も含めて検討していきます。

問 各地区ごとや週末の実施も考えていただけますか。

答 そのつど、検討していきたいと考えています。

## タウンミーティング 防災対策

### 災害廃棄物受け入れ、町の対応は



ましものぼる 真下 昇 議員

答弁⇒ 協力できることがあれば、町でも検討したい

問 東日本大震災の発生から1年が経過しました。復興庁も発足し、東北地方被災地の復興が本格的に開始されようとしていますが、被災地には膨大な量の災害廃棄物が発生しており復興の足かせになっています。広域処理の必要性・緊急性がますます高まっています。

答 埼玉県では、岩手県の災害廃棄物5万トンを今後2ヵ年で受け入れることを決定し、県内3カ所のセメント工場で安全性実証試験を行うとしています。

問 県が受け入れる災害廃棄物は岩手県野田村周辺の木くずであり、4月から施行される一般食品の出荷規制値1キログラム当たり100ベクレル以下、また県内市町村の廃棄物1キログラム当たり60ベクレルと同程度の放射性物質濃度のもので、今後、県が埼玉県環境整備センターで焼却灰を受け入れる方針を出したときの、町の対応について伺います。

答 1日も早い被災地の再建に向けて協力できることがあれば、町でも検討したいと考えています。

問 埼玉県が現在進めている岩手県野田村周辺からの受け入れについて、県から正式な要請があった場合には、放射能に関する正しい理解の上で協力が得られるよう、町議会・地元住民協議会及び地元住民に対して、国や県が責任を持って説明していただくことが必要であると考えています。

## 同和問題 災害廃棄物

### 町長の決意で、同和問題終結宣言を



たもがみせつこ 田母神節子 議員

答弁⇒ 引き続き同和対策の推進を図っていきます

問 町長は、同和問題を日本固有の人権問題であるとし、人権課題の正しい認識を深めるため、学校や地域におけるさまざまな研修や啓発活動を通じて人権意識の高揚を図り、だれもが平等で人権が守られる町の実現を目指す所信表明しています。

答 ことしもまた、2000万円を超す予算が計上されています。国の終結宣言から10年が経過しており、昨年からこそにかけて神川町を初め、本庄市・上里町・深谷市・美里町と終結しています。残るは大里郡で熊谷市と寄居町だけです。「同和」差別もほかの差別と同じに人権教育として、また一般会計の中で行えます。町長の決意で終結できます。町長、終結宣言を行ってください。

問 同和問題を人権問題の重要課題と位置づけ、人権同和教育、人権啓発の推進を図ってまいりましたが、いまだ身元調査やインターネットによる差別事象が見られるなど、人権侵害が後を絶ちません。同和問題の正しい理解と偏見のない、だれもが平等で人権が守られる町の実現のため、引き続き同和対策の推進を図ってまいります。

### 集会所学習の現状

問 同和関連予算での集会所学習の現状はどうか、伺います。

答 2つの集会所で68回の小・中学生学級を開催しました。98人の参加でのべ1110人の子どもたちが集会所学習で学びました。

HUG（ハグ）…避難所運営をみんなで考えるため、避難者の年齢や性別、抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館などに見立てた平面図に適切に配置できるが、また避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

タウンミーティング…町など行政当局が地域住民を集めて実施する対話集会。小泉政権のとき、各地で国政レベルの説明会を行い、これをタウンミーティングと称して以後、一般化しました。